

インド学インド仏教史専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時
インド学特論Ⅰ	祭式文献購読 ヴェーダ散文選	2	西村 直子	前期 木曜日 2講時
インド学特論Ⅱ	祭式文献購読 ヴェーダ散文選	2	西村 直子	後期 木曜日 2講時
インド仏教史特論Ⅰ	bSod nams rtse mo 著『タントラ概論』の原典講読	2	桜井 宗信	前期 火曜日 2講時
インド仏教史特論Ⅱ	bSod nams rtse mo 著『タントラ概論』の原典講読	2	桜井 宗信	後期 火曜日 2講時
インド学仏教史特論Ⅰ	インド中観派の説く空性と慈悲ならびにその実践	2	宮崎 泉	通年集中 その他 連講
インド学研究演習Ⅰ	ヴェーダ文献研究	2	西村 直子	前期 火曜日 5講時
インド学研究演習Ⅱ	ヴェーダ文献研究	2	西村 直子	後期 火曜日 5講時
インド仏教史研究演習Ⅰ	梵蔵漢対照による『俱舍論』の講読	2	桜井 宗信	前期 月曜日 3講時
インド仏教史研究演習Ⅱ	梵蔵漢対照による『俱舍論』の講読	2	桜井 宗信	後期 月曜日 3講時

科目名：インド学特論 I / Indological Studies (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：西村 直子

コード：LM14204, 科目ナンバリング：LGH-PHI601J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：祭式文献購読 ヴェーダ散文選
 2. Course Title (授業題目) : Vedic literature.
 3. 授業の目的と概要：本講義では『チャンドーギヤ・ウパニシャッド』 第 6 卷 (B.C. 600 頃以降) を取り上げ、読解演習を行う。講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。Upanishad : one hundred & eight Upanishads: (Īśā & others) : with various readings (Edited by Wāsudev Lakṣmaṇ Sāhstrī Paṇśīkar. Bombay: Nirnaya-Sagar Press, 1925[第 3 版]) をテキストとして, Ma
 4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this course, students will read Chandogya-Upanisad VI. The course provides students with essential discipline in Indian philology. It also help students learn about grammar, vocabulary, and syntax of Sanskrit as well as the Veda.
 5. 学習の到達目標： ヴェーダ文献及び祭式に関する知識を習得し、ヴェーダの散文が読めるようになる。
 6. Learning Goals (学修の到達目標) : By the end of this course, students will be able to
 1. acquire fundamental skills of philological study through with reading of the Brāhmaṇa.
 2. achieve essential knowledge to understand the origin of religion, culture, and language in India.
 7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 イントロダクション (テキスト及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明)
 - 2 - 1 5 Chandogya-Upanisad VI.
 8. 成績評価方法：

授業への準備状況 (30%), 授業で示される理解度 (70%)
 9. 教科書および参考書：

Upanishad : one hundred & eight Upanishads: (Īśā & others) : with various readings. Edited by Wāsudev Lakṣmaṇ Sāhstrī Paṇśīkar. Bombay: Nirnaya-Sagar Press, 1925[第 3 版]; Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, Gotō: Old Indo-Aryan Morpholo
 10. 授業時間外学習：授業は、最初はゆっくり進めるが、後半ではある程度のスピードで読み進めることを目標にする。受講者は、可能な範囲でよいので、単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。
- Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class. They are also required to make a tho
- 1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 - 1 2. その他：

履修にはサンスクリット語初級の知識を必要とする。
Knowledge of essential Sanskrit Grammar is prerequisite.

科目名：インド学特論Ⅱ／ Indological Studies(Advanced Lecture)II

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：西村 直子

コード：LM24204, 科目ナンバリング：LGH-PHI602J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：祭式文献購読 ヴェーダ散文選
 2. Course Title (授業題目)：Vedic literature.
 3. 授業の目的と概要：本講義では『シャタパタ・ブラーフマナ』 I 6,3 (B.C. 650頃以降)「IndraによるVrtra退治」の神話を取り上げ、読解演習を行う。講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。Weberの校訂本及びKalyan-Bombay版を基本テキストとして、Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, Gotō: Old Indo-Aryan Morphology, MacDonell: Vedic Grammar for Stud
 4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will read Satapatha-Brahmana I 6,3. The course provides students with essential discipline in Indian philology. It also help students learn about grammar, vocabulary, and syntax of Sanskrit as well as the Veda.
 5. 学習の到達目標：ヴェーダ文献及び祭式に関する知識を習得し、ヴェーダの散文が読めるようになる。
 6. Learning Goals(学修の到達目標)：By the end of this course, students will be able to
 1. acquire fundamental skills of philological study through with reading of the Brāhmaṇa.
 2. achieve essential knowledge to understand the origin of religion, culture, and language in India.
 7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 イントロダクション(テキスト及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明)
 - 2-15 Satapatha-Brahmana I 6,3
 8. 成績評価方法：

授業への準備状況(30%), 授業で示される理解度(70%)
 9. 教科書および参考書：

Satapatha-Brahmana (Ed. Weber, Ed. Kalyan-Bombay); Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, Gotō: Old Indo-Aryan Morphology, Macdonell: Vedic Grammar for Student; Delbrück: Altindische Syntax; Whitney: Sanskrit Grammar等。
 10. 授業時間外学習：授業は、最初はゆっくり進めるが、後半ではある程度のスピードで読み進めることを目標にする。受講者は、可能な範囲でよいので、単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。
- Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class. They are also required to make a tho
- 1.1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 - 1.2. その他：

履修にはサンスクリット語初級の知識を必要とする。
Knowledge of essential Sanskrit Grammar is prerequisite.

科目名：インド仏教史特論 I / History of Indian Buddhism(Advanced Lecture)I

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

semester：1 学期 単位数：2

担当教員：桜井 宗信

コード：LM12202, 科目ナンバリング：LGH-PHI603J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：bSod nams rtse mo 著『タントラ概論』の原典講読
2. Course Title (授業題目)：rGyud sde spyi rnam of bSod nams rtse mo：reading
3. 授業の目的と概要：チベット仏教界を代表する宗派の一つ Sa skya 派の管長を務めた bSod nams rtse mo(1142-1182)の代表作の1つ『タントラ概論』(rGyud sde spyi rnam)の講読を通じて、インドからチベットへと伝えられた密教に関する基本的な知識や理論を学ぶとともに、「蔵外文献」を読みこなす上で必要となる古典チベット語読解能力の向上を図る。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：By intensive reading of the rGyud sde spyi rnam, which is one of the masterpiece of bSod nams rtse mo (the second of the Five Venerable Masters of Sa skya pa), this course helps students learn about basic knowledge and theory of the Tantric Buddhism transmitted from India to Tibet, and deepen the ability of digesting native Tibetan Buddhist literatures in classical written Tibetan.
5. 学習の到達目標：インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will acquire the fundamental knowledge of Indo-Tibetan Tantric Buddhism, and develop the skills of reading classical Tibetan Buddhist literatures.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 『タントラ概論』講読 -1-
 2. 『タントラ概論』講読 -2-
 3. 『タントラ概論』講読 -3-
 4. 『タントラ概論』講読 -4-
 5. 『タントラ概論』講読 -5-
 6. 『タントラ概論』講読 -6-
 7. 『タントラ概論』講読 -7-
 8. 『タントラ概論』講読 -8-
 9. 『タントラ概論』講読 -9-
 10. 『タントラ概論』講読 -10-
 11. 『タントラ概論』講読 -11-
 12. 『タントラ概論』講読 -12-
 13. 『タントラ概論』講読 -13-
 14. 『タントラ概論』講読 -14-
 15. 『タントラ概論』講読 -15-
8. 成績評価方法：

授業・発表への取り組み (100%)
9. 教科書および参考書：

rGyud sde spyiḥi rnam par gshag pa, 『Sa skya 派全書』
10. 授業時間外学習：予習時にテキストの訳読を行い、復習時に新出術語や語法の確認を行う。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

リアルタイム型オンライン形式で実施。

「インド学仏教史」専攻分野所属学生のみ履修可。

科目名：インド仏教史特論Ⅱ／ History of Indian Buddhism(Advanced Lecture)II

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

semester：2学期 単位数：2

担当教員：桜井 宗信

コード：LM22204, 科目ナンバリング：LGH-PHI604J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：bSod nams rtse mo 著『タントラ概論』の原典講読
2. Course Title (授業題目)：rGyud sde spyi rnam of bSod nams rtse mo：reading
3. 授業の目的と概要：チベット仏教界を代表する宗派の一つ Sa skya 派の管長を務めた bSod nams rtse mo(1142-1182)の代表作の1つ『タントラ概論』(rGyud sde spyi rnam)の講読を通じて、インドからチベットへと伝えられた密教に関する基本的な知識や理論を学ぶとともに、「蔵外文献」を読みこなす上で必要となる古典チベット語読解能力の向上を図る。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：By intensive reading of the rGyud sde spyi rnam, which is one of the masterpiece of bSod nams rtse mo (the second of the Five Venerable Masters of Sa skya pa), this course helps students learn about basic knowledge and theory of the Tantric Buddhism transmitted from India to Tibet, and deepen the ability of digesting native Tibetan Buddhist literatures in classical written Tibetan.
5. 学習の到達目標：インド・チベット密教の基礎知識を理解するとともに、チベット語仏典読解力を向上させる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will acquire the fundamental knowledge of Indo-Tibetan Tantric Buddhism, and develop the skills of reading classical Tibetan Buddhist literatures.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 『タントラ概論』講読 -1-
 2. 『タントラ概論』講読 -2-
 3. 『タントラ概論』講読 -3-
 4. 『タントラ概論』講読 -4-
 5. 『タントラ概論』講読 -5-
 6. 『タントラ概論』講読 -6-
 7. 『タントラ概論』講読 -7-
 8. 『タントラ概論』講読 -8-
 9. 『タントラ概論』講読 -9-
 10. 『タントラ概論』講読 -10-
 11. 『タントラ概論』講読 -11-
 12. 『タントラ概論』講読 -12-
 13. 『タントラ概論』講読 -13-
 14. 『タントラ概論』講読 -14-
 15. 『タントラ概論』講読 -15-
8. 成績評価方法：

授業・発表への取り組み (100%)
9. 教科書および参考書：

rGyud sde spyiḥi rnam par gshag pa, 『Sa skya 派全書』
10. 授業時間外学習：予習時にテキストの訳読を行い、復習時に新出術語や語法の確認を行う。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

リアルタイム型オンライン形式で実施。

「インド学仏教史」専攻分野所属学生のみ履修可。

科目名：インド学仏教史特論 I / Indological Studies and History of indian Buddhism
(AdvancedLecture)I

曜日・講時：通年集中 その他 その他

セメスター：単位数：2

担当教員：宮崎 泉

コード：LM98821, 科目ナンバリング：LGH-PHI605J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：インド中観派の説く空性と慈悲ならびにその実践
2. Course Title (授業題目)：Mādhyaṃika in India on Emptiness, Compassion, and the Practice
3. 授業の目的と概要：インド中観派の思想と実践を理解するために、関連するインド仏教文献の和訳を資料として利用しながら、空とは何かを多角的に解説する。空性そのものだけではなく、慈悲との関係やインド後期中観派の実践も取り上げることで、インド大乘仏教の展開のひとつに触れることにもなる。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course offers a general introduction to the thought and practice presented by Mādhyaṃika in India. We will read a Japanese translation of related Indian Buddhist materials and investigate what is meant by emptiness from different perspectives. It may also provide a survey of an aspect of development of Mahayana Buddhism by focussing not only on emptiness itself but also its relationship to compassion, the practice of late Mādhyaṃika in India, and so on.
5. 学習の到達目標：インド大乘仏教の一派である中観派の思想と実践に関する理解を深めることができる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The aim of this course is a better understanding of the thought and practice presented by a school of Mahayana Buddhism in India, Mādhyaṃika.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション (授業の進め方と取り組み方について)
 2. 空性と慈悲 (『八千頌般若経』) (1)
 3. 同 (2)
 4. 慈悲の修習 (『修習次第』初篇)
 5. 菩提心 (『修習次第』初篇)
 6. 智慧と方便 (『修習次第』初篇)
 7. ナーガールジュナ (龍樹) の説く空 (『中論』) (1)
 8. 同 (2)
 9. 中観派と自立論証 (『明らかなことば』)
 10. 同 (2)
 11. 同 (3)
 12. 空性と智慧 (『修習次第』初篇) (1)
 13. 同 (2)
 14. 止と観 (『修習次第』初篇) (1)
 15. 同 (2)
8. 成績評価方法：

積極的な授業参加 (40%) と複数回の課題 (60%) による総合評価
9. 教科書および参考書：

授業中にプリントを配付し、教科書は使用しない。参考書は授業中に指示する。
10. 授業時間外学習：授業で扱う資料をあらかじめ配付するので、授業前に十分予習し、疑問点を整理しておくことが必要になる。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

リアルタイム型オンライン形式で実施する。

科目名：インド学研究演習 I / Indological Studies (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：西村 直子

コード：LM12507, 科目ナンバリング：LGH-PHI606J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ヴェーダ文献研究
 2. Course Title (授業題目) : Vedic Literature
 3. 授業の目的と概要：本講義では、『リグヴェーダ R.gveda』 IV 18 「Indra 讃歌」を取り上げ、読解演習を行う。講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。Aufrecht が校訂したテキストを用い、Grassmann: Wörterbuch zum Rig-Veda, Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, Gotō: Old Indo-Aryan Morphology, MacDonell: Vedic Grammar for Student
 4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : In this course, students will read R.gveda IV 18 mainly based on the text edited by Aufrecht. The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge in Indian philological study with Grassmann: Wörterbuch zum Rig-Veda, MAYRHOFER: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, GOTŌ: Old Indo-Aryan Morphology, MACDONELL: Vedic Grammar for Student, DELBRÜCK: Altindische Syntax, etc.
 5. 学習の到達目標：リグヴェーダ原典の講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。インドの宗教、文化、言語の源流を確認するための基礎研究入門を目指す。
 6. Learning Goals(学修の到達目標) : By the end of this course, students will be able to
 1. acquire fundamental skills of philological study through with reading of the R.gveda.
 2. achieve essential knowledge to understand the origin of religion, culture, and language in India.
 7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 イントロダクション (テキスト及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明)
 - 2-15 R.gveda IV 18
 8. 成績評価方法：

授業への準備状況 (30%), 授業で示される理解度 (70%)
 9. 教科書および参考書：

R.gveda-Saṁhitā (Ed. Aufrecht); Grassmann: Wörterbuch zum Rig-Veda, MAYRHOFER: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, GOTŌ: Old Indo-Aryan Morphology, MACDONELL, Vedic Grammar for Student; DELBRÜCK, Altindische Syntax; WHITNEY, Sanskrit Grammar,
 10. 授業時間外学習：授業は、最初はゆっくり進めるが、後半ではできるだけ多く読み進めることを目標にする。受講者は単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。十分な予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。
- Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class. They are also required to make a thorough review
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
 12. その他：

履修にはサンスクリット語初級の知識を必要とする。
Knowledge of essential Sanskrit Grammar is prerequisite.

科目名：インド学研究演習Ⅱ／ Indological Studies(Advanced Seminar)II

曜日・講時：後期 火曜日 5講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：西村 直子

コード：LM22506, 科目ナンバリング：LGH-PHI607J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ヴェーダ文献研究
 2. Course Title (授業題目) : Vedic Literature
 3. 授業の目的と概要：本講義では、『リグヴェーダ R.gveda』 IV 24 「Indra 讃歌」を取り上げ、読解演習を行う。講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。Aufrecht が校訂したテキストを用い、Grassmann: Wörterbuch zum Rig-Veda, Mayrhofer: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, Gotō: Old Indo-Aryan Morphology, MacDonell: Vedic Grammar for Student
 4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : In this course, students will read R.gveda IV 24 mainly based on the text edited by Aufrecht. The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge in Indian philological study with Grassmann: Wörterbuch zum Rig-Veda, MAYRHOFER: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, GOTŌ: Old Indo-Aryan Morphology, MACDONELL: Vedic Grammar for Student, DELBRÜCK: Altindische Syntax, etc.
 5. 学習の到達目標：リグヴェーダ原典の講読を通じて、文献学の具体的方法習得に努める。インドの宗教、文化、言語の源流を確認するための基礎研究入門を目指す。
 6. Learning Goals(学修の到達目標) : By the end of this course, students will be able to
 1. acquire fundamental skills of philological study through with reading of the R.gveda.
 2. achieve essential knowledge to understand the origin of religion, culture, and language in India.
 7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 イントロダクション (テキスト及び参考書について、取り上げる題材の概要、予習の進め方、授業の進め方等について説明)
 - 2-15 R.gveda IV 24
 8. 成績評価方法：

授業への準備状況 (30%), 授業で示される理解度 (70%)
 9. 教科書および参考書：

R.gveda-Saṁhitā (Ed. Aufrecht); Grassmann: Wörterbuch zum Rig-Veda, MAYRHOFER: Etymologisches Wörterbuch des Altindoarischen, GOTŌ: Old Indo-Aryan Morphology, MACDONELL, Vedic Grammar for Student; DELBRÜCK, Altindische Syntax; WHITNEY, Sanskrit Grammar,
 10. 授業時間外学習：授業は、最初はゆっくり進めるが、後半ではできるだけ多く読み進めることを目標にする。受講者は単語を調べ、語形を確定し、訳すように努力すること。十分な予習が難しい場合は、授業内容をしっかりノートに書き込み復習すること。
- Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class. They are also required to make a thorough review
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
 12. その他：

履修にはサンスクリット語初級の知識を必要とする。
Knowledge of essential Sanskrit Grammar is prerequisite.

科目名：インド仏教史研究演習 I / History of Indian Buddhism(Advanced Seminar)I

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：桜井 宗信

コード：LM11306, 科目ナンバリング：LGH-PHI608J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：梵蔵漢対照による『俱舎論』の講読

2. Course Title (授業題目)：Abhidharmakośa of Vasubandhu：reading

3. 授業の目的と概要： Vasubandhu (世親) の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、瑜伽行唯識派など大乘仏教の思想を理解するためにも必要不可欠な基本典籍である。

この授業では同書第 1 章(「界品」)の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読し Vasubandhu の考え方を理解するとともに、“梵蔵漢 3 書を比較対照し考察を進める”というインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The Abhidharmakośa by Vasubandhu is very famous as an outline of the thought of the Sarvāstivādin in brief and critical manner, and it is necessary not only for grasping the Sarvāstivādin's way of thinking but also for understanding the thought of Mahāyānic Buddhism such as the Yogācāravāda.

In this course continuing from the last term, we will be reading Sanskrit, Tibetan and Chinese texts of the Abhidharmakośa (Dhātunirdeśa), which serves students to understand Vasubandhu's thought and to get a basic skill on studying Indian Buddhist Literatures, i.e. the comparative study of Skt.-Tibetan-Chinese texts.

5. 学習の到達目標：基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students deepen the ability of reading basic Buddhist literatures, and obtain correct knowledge about some fundamental and important technical terms on Indian Buddhism.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 『俱舎論』講読-1-
2. 『俱舎論』講読-2-
3. 『俱舎論』講読-3-
4. 『俱舎論』講読-4-
5. 『俱舎論』講読-5-
6. 『俱舎論』講読-6-
7. 『俱舎論』講読-7-
8. 『俱舎論』講読-8-
9. 『俱舎論』講読-9-
10. 『俱舎論』講読-10-
11. 『俱舎論』講読-11-
12. 『俱舎論』講読-12-
13. 『俱舎論』講読-13-
14. 『俱舎論』講読-14-
15. 『俱舎論』講読-15-

8. 成績評価方法：

授業・発表への取り組み (100%)

9. 教科書および参考書：

用いる基本資料は次の通り：

- ・ 梵文原典：『梵文阿毘達磨俱舍論 I 界品』（江島恵教著），山喜房仏書林，平成 15 年.
- ・ チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用.
- ・ 漢訳：『阿毘達磨俱舍論』（玄奘訳）；『阿毘達磨俱舍釈論』（真谛訳）.

※『俱舍論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。

1 0. **授業時間外学習**：予習時に前記基本資料を訳読すると共に，重要術語の内容確認等を行う。

1 1. **実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. **その他**：

「インド学仏教史」専攻分野所属学生のみ履修可。

科目名：インド仏教史研究演習Ⅱ／ History of Indian Buddhism(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：桜井 宗信

コード：LM21304, 科目ナンバリング：LGH-PHI609J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：梵蔵漢対照による『俱舎論』の講読

2. Course Title (授業題目)：Abhidharmakośa of Vasubandhu：reading

3. 授業の目的と概要： Vasubandhu (世親)の著した『俱舎論』は、説一切有部の教学を簡潔かつ批判的に纏めた綱要書として余りに有名であり、単に有部の思想を把握する上からのみならず、瑜伽行唯識派など大乘仏教の思想を理解するためにも必要不可欠な基本典籍である。

この授業では同書第1章(「界品」)の梵文原典をチベット語訳・漢訳とも対照させながら講読し Vasubandhu の考え方を理解するとともに、“梵蔵漢3書を比較対照し考察を進める”というインド仏教文献を扱う際の基本的方法を学ぶことを目的とする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The Abhidharmakośa by Vasubandhu is very famous as an outline of the thought of the Sarvāstivādin in brief and critical manner, and it is necessary not only for grasping the Sarvāstivādin's way of thinking but also for understanding the thought of Mahāyānic Buddhism such as the Yogācāravāda.

In this course continuing from the last term, we will be reading Sanskrit, Tibetan and Chinese texts of the Abhidharmakośa (Dhātunirdeśa), which serves students to understand Vasubandhu's thought and to get a basic skill on studying Indian Buddhist Literatures, i.e. the comparative study of Skt.-Tibetan-Chinese texts.

5. 学習の到達目標：基礎的仏典の読解力を向上させるとともに、重要な術語に関する正確な知識を習得する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students deepen the ability of reading basic Buddhist literatures, and obtain correct knowledge about some fundamental and important technical terms on Indian Buddhism.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 『俱舎論』講読-1-
2. 『俱舎論』講読-2-
3. 『俱舎論』講読-3-
4. 『俱舎論』講読-4-
5. 『俱舎論』講読-5-
6. 『俱舎論』講読-6-
7. 『俱舎論』講読-7-
8. 『俱舎論』講読-8-
9. 『俱舎論』講読-9-
10. 『俱舎論』講読-10-
11. 『俱舎論』講読-11-
12. 『俱舎論』講読-12-
13. 『俱舎論』講読-13-
14. 『俱舎論』講読-14-
15. 『俱舎論』講読-15-

8. 成績評価方法：

授業・発表への取り組み(100%)

9. 教科書および参考書：

用いる基本資料は次の通り：

- ・ 梵文原典：『梵文阿毘達磨俱舍論 I 界品』（江島恵教著），山喜房仏書林，平成 15 年.
- ・ チベット語訳：デルゲ版及び北京版を使用.
- ・ 漢訳：『阿毘達磨俱舍論』（玄奘訳）；『阿毘達磨俱舍釈論』（真谛訳）.

※『俱舍論』を読解する際に役立つこの他の文献資料については、『梵語仏典の研究Ⅲ』及び『仏教研究入門』が参考になる。

1 0. **授業時間外学習**：予習時に前記基本資料を訳読すると共に，重要術語の内容確認等を行う。

1 1. **実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. **その他**：

「インド学仏教史」専攻分野所属学生のみ履修可。